

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200541		
法人名	株式会社 秀心館		
事業所名	グループホーム やわら		
所在地	静岡県浜松市中区鴨江1-30-14		
自己評価作成日	平成27年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/a0per>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県葵区千代田3丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成27年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①ご利用者様の尊厳を守る事がケアの基本であるという認識に立ち、「どんな事があっても拘束は行わない」という姿勢を持つ事の必要性が職員に浸透し、施設一丸となって取り込む事を再認識した。
- ②職員が研修へ積極的に参加、技術力が向上して介護のレベル上がった。ご利用者様と毎日、買物(食材)に行き、家庭料理を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、浜松市の中心街鴨江観音の近くに位置しています。建物は鉄筋4階建てで、5階は広い屋上となっています。同じ建物内には、グループ企業のNPO法人の柔道場があり、少年スポーツの育成に努めています。事業所では、「みんなの笑顔を大切に、一人ひとりに寄り添う介護」を理念に介護ケアを提供しようと努力を続けています。事業所内には広い4Fフロアがあり、音楽療法やカラオケ教室、合同ミニ運動会で賑わいます。また事業所では、防災防火の一助として近隣住民の防災避難所として連携したいと提案を続けています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型のサービスの意識があるものの、主体的には、実践は、できつつある。	「みんなの笑顔を大切に、一人ひとりに寄り添う介護」を合言葉にケアに努めています。それでも日頃の忙しさで近隣との交流などは、おろそかになり、職員の悩みがあるようです。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会交流を通して、夏・秋まつり、街路樹清掃(年2回)に参加。散歩で近所の人とあいさつ、会話をしている。	鴨江町は昔から門前町として栄え今も町内祭事は活発です。夏祭りの盆踊り、秋祭りの子ども神輿などには参加しています。また施設前の並木の街路の清掃は年2回行われ、町民交流の場となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や支援をしてない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議へご利用者様のご家族に出席して頂いていますが家族と話し合い時間を設けているがほとんどご意見が出てこない。施設側の質問に対してのご意見ぐらい。サービスの向上に活かされていない。	懸念であったご家族の出席が定例化しました。議題は「高齢者の徘徊者の急増」で、靴にオレンジシールを貼るなどの対策が紹介されました。また、ホームからは「身体拘束」の研修が報告され、スピーチロックの学習を紹介しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議において情報を共有をしている。市担当者から助言を基に、指導を生かしている	介護保険法の改正で、市担当者、地域包括から情報を取得し活用できました。また災害時の住民避難所に当方の柔道場の活用を提案しています。その他、県社協の研修で、他の介護事業所と16年度を合同研修とする企画がまとまる成果がありました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本格的にやわら身体拘束ゼロ委員会を立ち上げ、職員全体で定期的に会議をしていて今年テーマ「スピーチロック」を決める、また施設内研修で外部講師を招き、身体拘束の正しく理解できるようになった。	今年から「スピーチロック廃止の取り組み」の年間計画を実施しています。3ヶ月に1回の発表会を開き情報を共有していますが「言葉遣い」が柔らかくなったなど、徐々に効果が表れていると管理者は報告しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のスタッフ間でケアの方法を話し合い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会がない為、理解できない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	4月介護保険法の改定でご家族へ十分な説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書箱を設け、ご家族の意見を伺っている	現状は、投書箱は、あまり活用されていないので、ご利用者のご家族の面会時等で意見や要望を聞いています。スタッフの名前と顔が一致しないという件では、スタッフのエプロン等に名前を書くことで、問題を解消しました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の代わりに、フロー会議、リーダー会議で、意見を聞き反映している。	全体の職員会議ではなく、各階の職員ごとの意見、要望の聞き取りをし意向をまとめています。	ご利用者、ご家族の状況、要望は変化するのが地域密着型サービスです。職員の意見を聞く機会、意見の出しやすい工夫、職員の気づき、アイデアを取り入れる努力を進めましょう。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の評価をしてない。職場環境・条件の整備がされていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、各自の希望に応じて参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流していない。今後、取り組む予定		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いに耳を傾け関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活を共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々によって違いはあるが交流が出来る。	4Fのフロワーでは、訪ねてきたカラオケ仲間と歌を楽しみ、居室では、宗教仲間と集い積極的な交流に努めており支援しています。師走月には、1F駐車場ではグループの少年柔道会の餅つき大会が盛大に開かれ、ご家族も参加して賑わいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の間の関係が出来ている。互いにいたわり合える関係が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経過のフォローはしていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いが伝わらないので傾聴する事で把握に努めている	ご利用者の情報は、伝わりにくく、正確を期すため、ご家族からも、情報を取集したり、フェイスシートなどから思いや意向を確認、活用しています、	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方を再度見直しをしていく		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りで確認、日常的に連携しあい。本人の状況を確認、把握に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成している。	介護計画は、本人の状態、朝の申し送りなどからプランの変更、追加などを協議し、ご家族の意向も入れてサービス担当者会議で見直しを決めていきます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、申し送りで情報の気づきや工夫は、記録されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズなどに対し、日々カンファレンスを行い柔軟な支援を検討していく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々の交流や家族、知人との交流をし豊かな暮らしを楽しむ事ができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	している	ご利用者は入所時に施設の主治医に変更してもらいます。そして月1回の往診、歯科は年1回の診察が行われます。また、独自の看護体制を組み適切な介助に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、他施設を紹介しターミナルケアはしていない。あくまでも主治医、看護師の指示に従っている。	過去、終末期のご利用者さんが在所していたケースもありましたが、当施設では、医療行為ができないなどを説明し、ターミナルケアは主治医の判断に、ゆだねています。	最近、終末期の介護の在り方を考える傾向にあります。このため協力医、看護師、経営者、職員らを含め検討、研修等の必要性を考える時期ではないかと推測しております。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	していない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練をしている。数名の近所の方に協力を得ているが地域(自治会)との連携はない。	防災訓練は、夜間を想定し年2回実施しています。そして初期消火、非常階段を利用した脱出訓練をします。また備蓄品は、飲料水、乾パンを常備しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、入居者様にあつた個別の声かけをしている。	事業所では、トイレや入浴の場合、プライドを傷づつけない、さりげない対応に心がけています。そしてご利用者の誇りや過度に馴れ馴れしい言葉かけに配慮し尊厳を守ろうとしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の意志を尊重している。職員からの働き掛けもしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別に希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の希望を聞き、その時どきに応えている。身だしなみは、特に気お付けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の家庭料理をととても楽しみにしている。食事の準備・片付けなどしている。特別にご利用者様の誕生日には何が食べたいのか聞き、その人の好きなものを作る。	食材は、ご利用者とともにスーパー、商店で仕入れており、メニューも同じように相談して決めています。食事の準備は主にスタッフですが、後かたづけは、ご利用者も手伝います。また誕生日には、本人の希望を取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に気を付けて一人一人の状態を把握し食べる量や水分量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員毎食後に声かけをし自力で出来ない方には、職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常に声かけをしその人に合った介助。又は、自力で排泄できる様、支援している。	排泄の自立支援を促そうとしていますが半数弱の方が布パンツで、残りの方はリハビリパンツです。いずれの方も、車いすの方でも、立って排泄しようと努めさせています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や乳製品の摂取等に気を付けると共に便秘ぎみの人には、調整剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2、3回の入浴。こんな時間帯に入るといご利用者様もいますが喜んで入って頂いています。	2Fには、回転式リフトの入浴補助装置があります。入浴時間は、午前中に決められているため、初めは慣れずにいましたが、最近是好評のようです。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体調に応じて休ませる。健康に問題がない時は、ご利用者様の自由意志に任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬の情報は理解されている体調の変化時には看護師(非常勤)に連絡し、主治医の指示を仰ぐ。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク、体操を通して気分転換したり、ご利用者様に合わせた支援して、例えば、座位できる人の為に食器拭き・洗濯物のたたみ、雑巾縫い等をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買い物(食材)外出。月1、2回の外出支援。ご利用者様の家族も外食やドライブ等に行き協力して頂いている。地域の方と出かける事はない。	近隣の散歩路は、体力の衰えで年々短くなり、旅館街を回る周遊コースが中心です。ここにはスタッフも同行し車も少なく快適です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の金銭(預り金)は施設が管理。ご利用者様の希望に応じて、お小遣いとして使用できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様の申し出があれば自由に電話をかける様にしている。家族へ事前に電話する事を伝える。但し例外もある(家族が拒否の場合)。日中、急がしいご家族様はメールを送る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔である事が基本にしている。落ち着いて過ごせる様、大きな物音、声を立てない様に配慮している。食事時は音楽を流し季節の花や季節に合った壁面の飾りして季節感を演出。	施設の4Fは広いホールになっており、月2回の音楽療法の会場、月1回の合同レクリエーションでミニ運動会を楽しみます。また敬老会やクリスマス会も開かれ、その日4Fは、にぎわいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の席以外に共有のソファを用意しご利用者様同士で話し合える場を提供している。また、入口横にも椅子が用意してあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様、家族の希望に添った好みの物、馴染みある物を置いて頂く	なじみのある家具、思い出のある小間物が並ぶ居室が目立ちました。中には、家具調の仏壇を置き亡夫の霊に毎朝礼拝する方も見受けられました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	別フロアへの移動は職員と行っている居至廊下・トイレ・風呂場にはすべて手摺りがあり職員の見守りにて安全面は守られている。歩行不安定な方は洗面所・トイレに近い椅子に座ってもらい、歩行が少しでもできる環境を作る様にしている。		